

# 診療所教育におけるインセンティブ —PCFMネットアンケート調査より—

武田裕子<sup>1)</sup> 大西弘高<sup>2)</sup> 藤原靖士<sup>3)</sup> 内山富士雄<sup>4)</sup> 白浜雅司<sup>5)</sup> 松村真司<sup>6)</sup>

1) 琉球大学医学部附属病院地域医療部

2) 国際医学大学、マレーシア

3) 奈良県月ヶ瀬村国保直営診療所

4) 内山クリニック

5) 佐賀県三瀬村国民健康保険診療所

6) 松村医院・東京大学医学教育国際協力研究センター

## 【研究の背景】

プライマリ・ケア教育において、診療所における実習・研修が注目されている。授業の一環としてカリキュラムに取り入れる大学が出てきており、新医師臨床研修制度では、地域保健医療研修として診療所研修が推奨されている。診療所実習・研修は、多様なプロフェッショナリズム形成にも結びつくと考えられている。今後、診療所における実習・研修のニーズは高まると予想される。

## 【研究の目的】

学生の診療所実習受け入れに際し、現在どのようなインセンティブが存在するか現状を調査する。また、診療所医師にとってはどのようなインセンティブが魅力的かを明らかにする。

## 【研究の方法】

対 象：PCFMネット会員68施設(2003年12月現在)

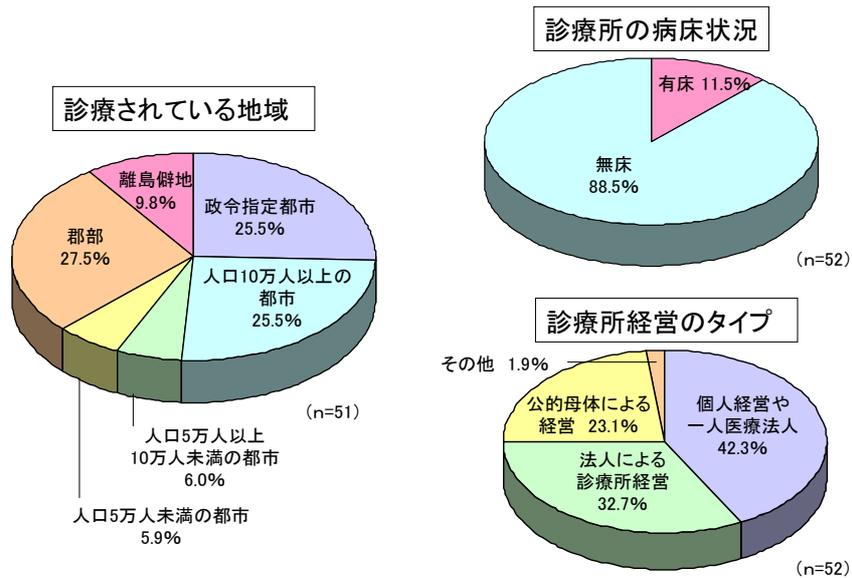
方 法：郵送法(無記名自記式調査用紙を送付)

PCFMネットのメーリングリスト(ML)  
で調査協力のリマインダーを送信した

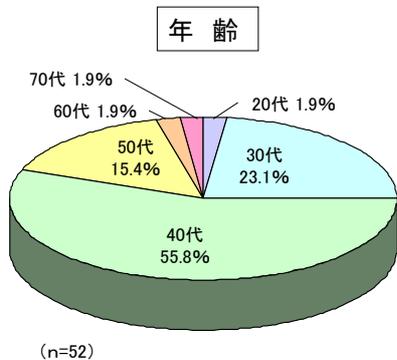
回答施設：52施設

回 収 率：76.5%

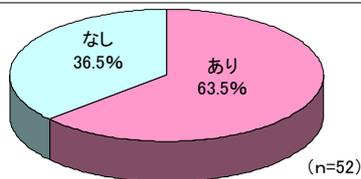
### 回答診療所のDemographics



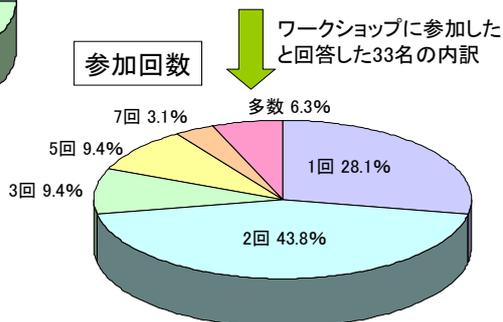
## 回答医師のDemographics



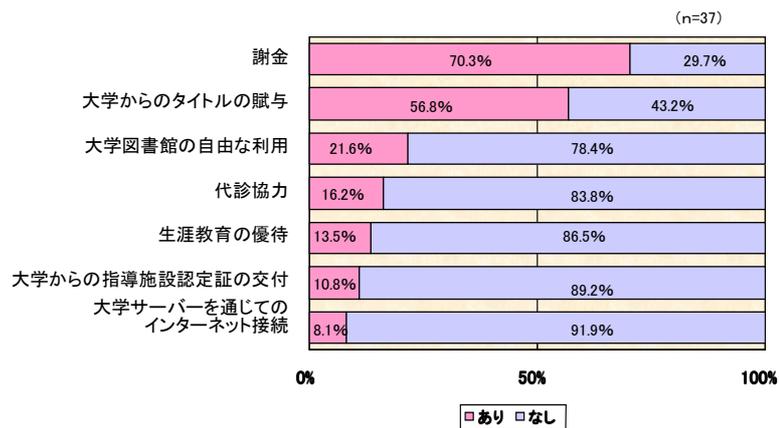
## 教育や学生・研修医指導方法に関するスキルアップのためのワークショップへの参加



## 参加回数



## 大学から提供されたインセンティブ



### 大学からのタイトルの賦与について(自由記載欄)

客員教授(1件)      臨床教授(4件)      臨床助教授(3件)  
 臨床講師(12件)      非常勤講師(3件)      学外講師(1件)

## 実習受け入れに対しての謝金について

(括弧内は1回の実習受け入れにおける1日当たり実習時間×日数・受け入れ学生数)

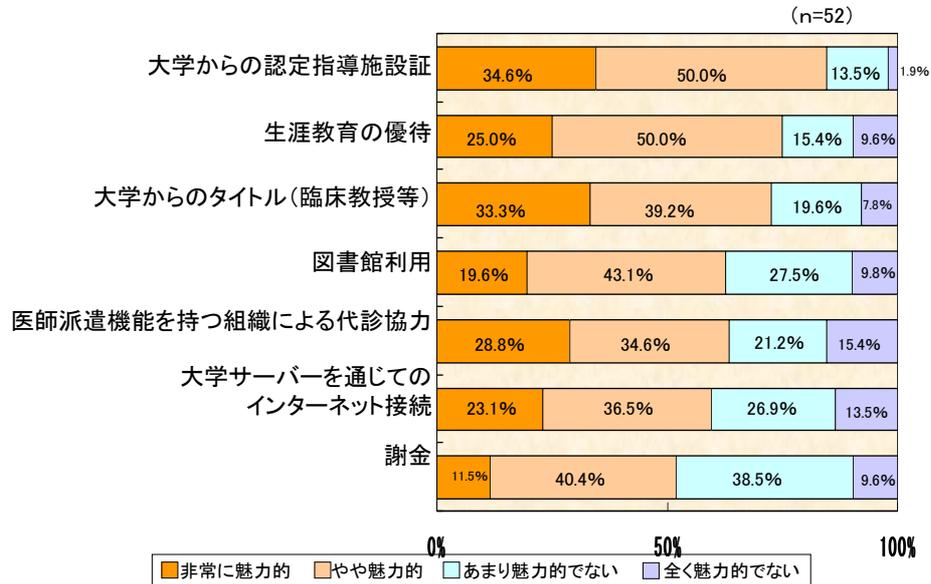
【時給制】	国立A大学	1,500円／時間(7時間×20日・2名)
	国立B大学	1,650円／時間(8時間×3日・6～9名)
	国立C大学	1,650円／時間(8時間×5日・5名)
	国立D大学	6,180円／時間(5時間×1日・3名)
【日当制】	公立E大学	3,000円×4～14日(8時間・1～5名)
	国立B大学	10,000円×3日(8時間・15名)
【定額制】	国立B大学	30,000円／回(8時間×3日・10名)
	国立F大学	10,000円／回(8時間×6日・1名)
	公立G大学	21,000円／回(8時間×4日・6名)
	国立H大学	123,750円／回(8時間×25日・2名)

## 学生受け入れに伴う診療所の負担

(自由記載抜粋)

- 500円 昼食代
- 3,000円 3泊4日で、食事代2,000円、  
クリーニング・光熱費など1,000円
- 5,000円 ゴム手袋、注射器のロス、光熱費など
- 20,000円 医師対応人件費
- 300,000円 診療患者制限2×20=40人 食事代

## 受け入れに魅力的と思うインセンティブ



### 【考察】

- 大学から提供されているインセンティブで最も多いのは謝金(70.3%)、次に臨床教授や講師などのタイトル(56.8%)であった。
- 謝金の支払いは、時給制、日当制、定額制など大学によって異なり、金額もさまざまであった。
- 診療所医師が学生受け入れの際に大学から提供されて魅力的に感じるものは、多い順に、大学からの認定指導施設証、生涯教育の優待、大学からのタイトルと続き、謝金という回答は最も少なかった。
- 学生実習受け入れには何らかの経済的負担が発生する
- 謝金があることで、診療所職員や家族の理解を得やすい、公立診療所では自治体に意義を認めてもらいやすいというコメントが寄せられた。

### 【結論】

大学側は、診療所への学生実習受け入れに対する報酬として、謝金に加え協力診療所医師のニーズに沿ったインセンティブを検討する必要がある。

### 【謝辞】

アンケート調査にご協力下さったPCFMネット会員の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。